



Pentel

ぺんてる株式会社
サステナビリティレポート



SUSTAINABILITY
REPORT

2022

CONTENTS

ぺんてるの想い

トップメッセージ	2
ぺんてるのサステナビリティ	3
サステナビリティ・ビジョン	6
ぺんてるのあゆみ	9

従業員とはぐくむ

独創的な商品を生み出す研究	13
QCサークル活動	14
働きやすい職場環境づくり	15
労働安全衛生	17

社会とはぐくむ

事業を活かした社会貢献	18
納涼祭	20
工場周辺のクリーン活動	21
海外でのイベント	22
本社・工場見学の実施	23
写生会・絵画教室	24
世界児童画展	25

地球とはぐくむ

環境綱領	26
環境マネジメント体制	27
法令順守評価	28
社外認定制度の取得	29
事業活動と環境負荷の関わり	30
CO2排出量の低減	31
生物多様性の保全	33

お客様とはぐくむ

お客様相談室	35
お客様の声から	36
品質保証体制	37

パートナーとはぐくむ

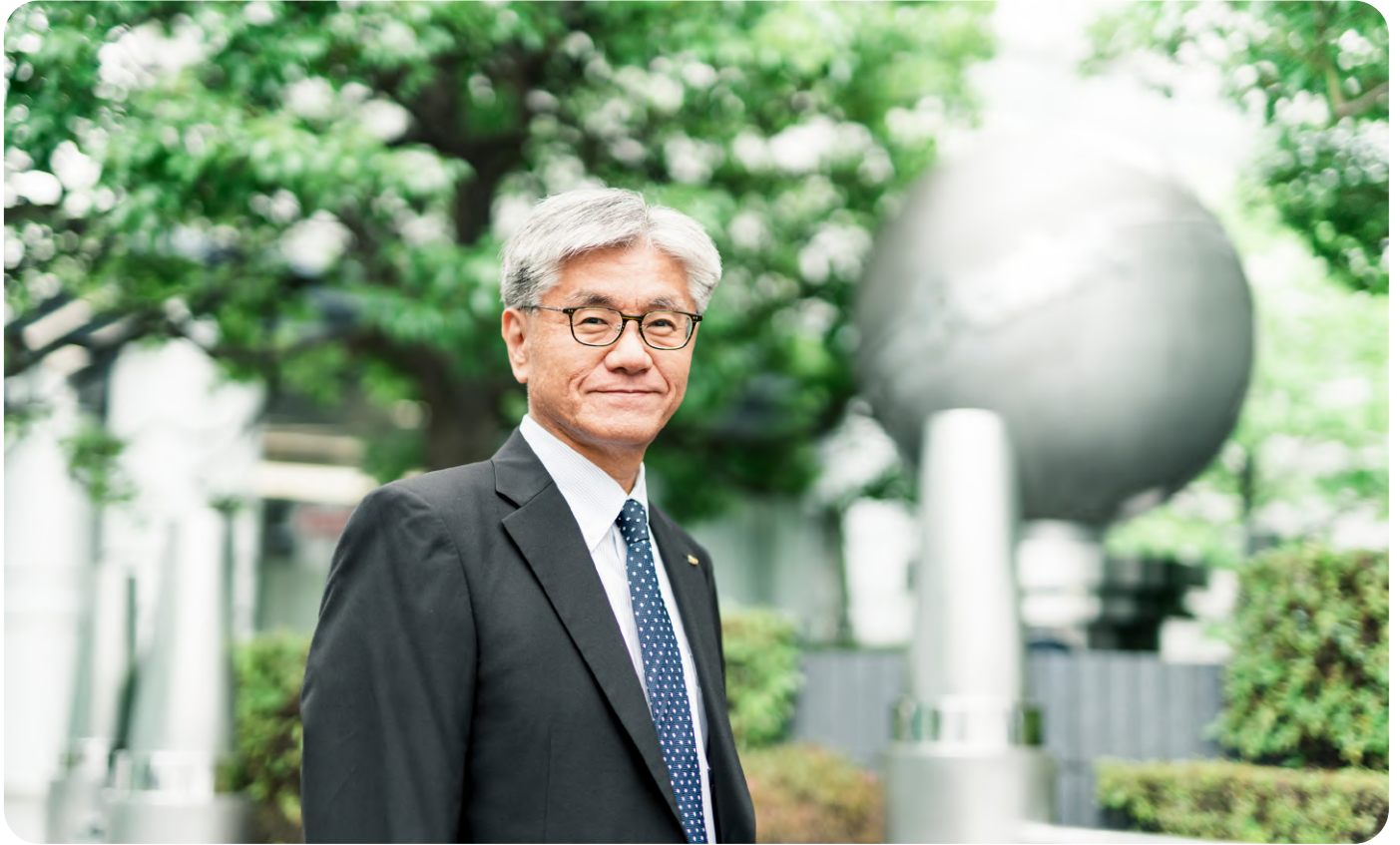
お客様の手に渡るまで	38
------------	----

ガバナンス

GRIスタンダード対照表	41
--------------	----

会社概要	48
------	----

「表現するよろこびをはぐくむ」ために



表現するよろこびをはぐくむ筆記具の提供を通じて 持続可能な社会の実現を目指します。

1946年の創業以来、当社は「表現するよろこびをはぐくむ」という想いのもと、筆記具・描画材を開発し世界中の人々に提供してまいりました。

筆記具は人の感性を受け止め、それを文字や絵、色などに表現することで、知性を活性化させます。知の目覚めの橋渡し役を担い、人の知性を文化にまで引き上げる役割を人類の歴史のなかで担ってきました。

デジタル化が加速する世の中にあっても筆記具の持つ役割は変わることはありません。いやむしろ、これまで以上にその役割は大切なものになってきています。

デジタル化の加速により、知的労働の多くはAIにより単純化され、肉体的労働の多くはIoTやロボティクスにより軽減化されていきます。デジタル化は労働という概念を一変させつつあります。人々は面倒で、つらい労働から解放されていくなかで、良くも悪くもより創造的な仕事や創造的な生き方を探求していくこととなります。

デジタルの世界にはフィジカルは存在しません。0と1による信号の流れが存在するだけです。メタバースの世界であろうともそこはあくまでも仮想現実であり、フィジカルな実態は存在しません。それに対して、人は確実に存在し、生命として呼吸し、代謝し、思考し、恋をし、生殖し、組織し、伝承し、そして死にます。

フィジカルな存在としての人の創造性や想像力を培うためにはフィジカルな体験を積み重ねることが不可欠です。筆記具や描画材で書くこと描くことは、まさにフィジカルな体験そのものです。表現するというのは頭脳や手を使うばかりではなく、全身の五感をまさに総動員して行うハッピーな行為です。その体験が創造性・想像力を活性化させ、その力を豊かに育みます。個人のフィジカルに準拠するからこそ、その力、能力はコピーできない、置換えの効かない絶対的な個性として育まれます。

フィジカルな体験、書くこと描くことを通して、べんてるは世界の人々の表現するよろこびを育み、ともに生きるよろこびを分かち合っていきます。それこそが、持続可能な社会の実現に確かに繋がると信じています。

代表取締役社長 高橋智和

表現するよろこびをはぐくむ

私たちは創業以来、人とはどうあるべきか？
「正しい人格」とは何で、「愛される人柄」はどう形成されるのか？
ということに向き合い続けて参りました。

結果、見えてきたことは、
人はひとりひとりに個性があり、多様で、
愛があり、感謝があり、自由なアイデアがあるということ。
尊い存在になりうるということ。

しかし、歴史を振り返ると、
人は様々な過ちを犯したということも事実です。
人同士の問題である戦争や差別はもちろん、
地球温暖化や生態系破壊などの様々な問題も
すべて人に起因しています。

サステナビリティの時代は、
そうした人の在り方をあらためて問われる時代だと
私たちは考えています。

そうした時に、人を正しい方向に導くのは何でしょうか？

それはAIなどのテクノロジーの発展だけで実現できるものではありません。
ましてや、杓子定規な方法論に沿った活動でもありません。

人が人を、人が社会を、人が地球を思いやる愛や感性といったものは、
「表現すること」を通じてはぐくまれると私たちは考えています。

感じるままに、想いをかたちにすること。正解から、はみだしてみること。

「表現するよろこびをはぐくむ」
この私たちのビジョンには、こうした人と社会と地球に対する思いが込められています。

ぺんてるのルーツ

・ 筆から受け継がれる技術と想い

ぺんてるの前身となる堀江文海堂は、1911年の創業。筆や硯を扱う卸売業からスタートし、やがて商品を自分たちで作るようになります。墨をクレヨンのように握り固めて使う「にぎり墨」は当時の目玉商品でした。そして、遠く1200年以上も昔から、日本人にとって身近な存在だった筆。「筆跡にはその人の個性が宿る」と考えられ、書き味の良い筆を作るには優れた職人による高度な筆先の技術が必要でした。現在のぺんてるが持つこだわりである「先っほの技術」や誰もが使えるように「敷居を下げる」ことは、こうした先人たちの想いや技術が受け継がれたものなのです。



創業者 堀江幸夫

・ クレヨンから始まる表現具への挑戦

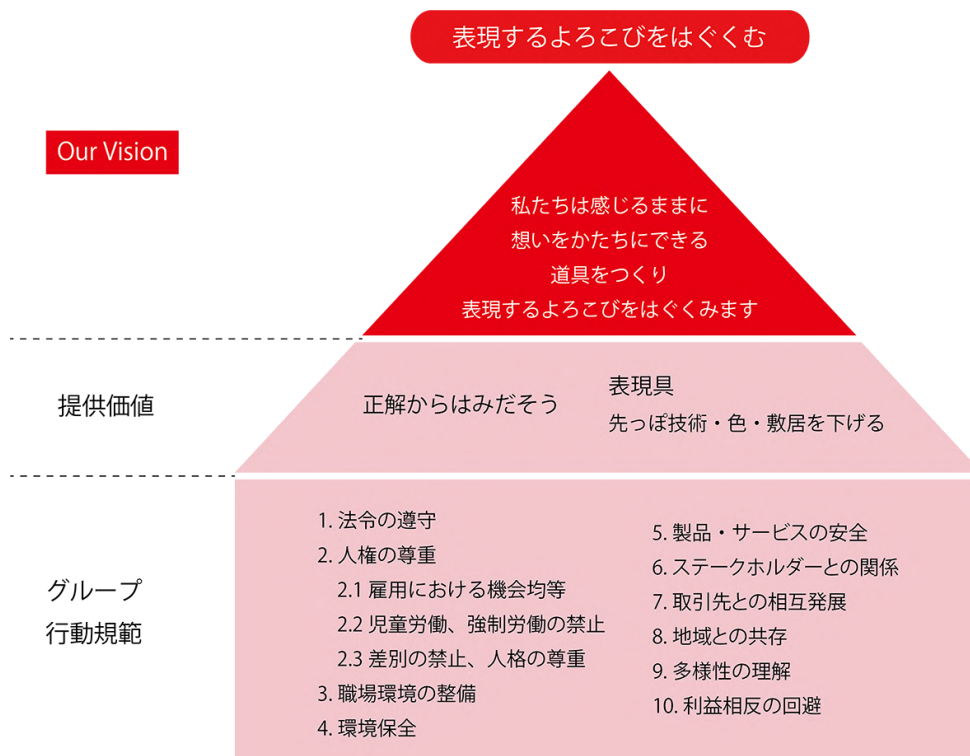
終戦後、日本を統治していたGHQの指示のもと、学校での習字教育が禁じられることとなります。後のぺんてる創業者となる堀江幸夫は、「これからは絵や音楽など芸術文化が広く普及することになる」と考えました。そこで子どもたちのために、表現を学ぶ道具を筆に代わる形で作ろうと、当時まだ珍しかったクレヨンの製造を行うことを決断。当時の社員たちとともに独学で文献を探し出して製造方法を学び、自ら装置を調達して、事業を立ち上げます。ここに、ぺんてるのもうひとつのこだわりである「色」のルーツが生まれ、いまにつながる表現具開発への挑戦が始まるのです。



日本の書の文化を支えた堀江文海堂をルーツに、戦後は日本の子どもたちのために描く教育が必要との強い信念から当社は創業しました。当社は、社会や環境の変化に寄り添いつつ、いつも「表現するよろこび」を探求してきました。

ぺんてるの理念

「表現するよろこびをはぐくむ」は、私たちがお客様、地域社会、従業員、全てのステークホルダーと交わす約束の言葉です。
この約束を果たすために、私たちは日々活動をしています。



• Our Vision

『私たちは、感じるままに想いをかたちにできる道具をつくり、表現するよろこびをはぐくみます』

「画材」でも「事務用品」でもない「表現具」づくり。うまい絵を描くための「画材」でもない 情報を伝えるための「事務用品」でもない 感じるままに、頭の中の考えやイメージを素直に表現する・伝えるための表現具。その「表現具」は、AIの世の中にあるからこそ、人々に必要とされ続けると、私たちは考えます。そんな私たちの想いを、Our Visionとして表現しました。

• 提供価値

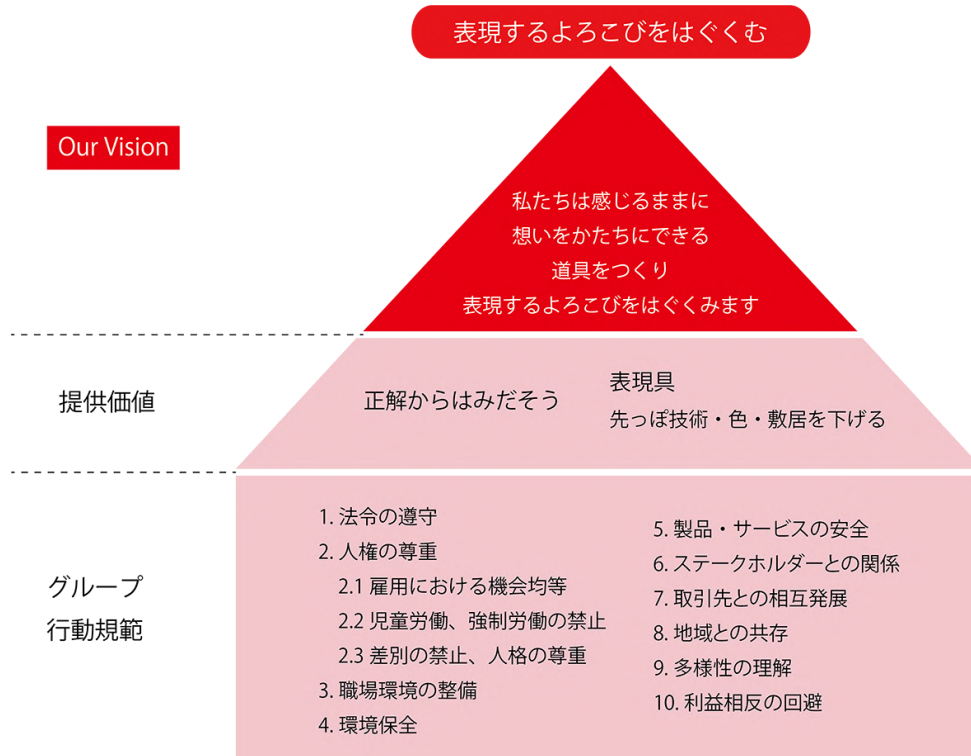
『正解からはみだそう』ここでいう正解とは、私たちがいつの間にか身につけてしまった既成概念のことです。表現具は、単に仕事の効率化を可能にする道具ではなく、人々の創造する力を支え、よろこびや夢を表現するための道具です。創業以来、私たちは既成概念を超えて豊かな表現に寄り添い、多くの人の人生に色を添える道具をつくってきました。そして、これからの時代にますます必要とされる人々の創造性の発揮と、よろこびや夢の表現を道具を通じて支えるために、「正解」という名の既成概念の殻を打ち破って、チャレンジしてまいります。

• 行動規範

2015年に策定した「ぺんてるグループ行動規範」を日本だけでなく、全世界の関係会社に配布し、周知徹底を図っています。グローバルな事業展開を行う企業として、法令遵守に留まらず、企業倫理や道徳、社内ルール、国や地域の法令や規制の厳守はもとより、正しい行動を実践するためのものと位置づけ、グループ全体での推進を図っています。

サステナビリティ・ビジョン

べんてるは、多様な人々と表現するよろこびをはぐくみ、真に価値のある企業になるために、さまざまな活動をステークホルダーとともに進めています。



表現するよろこびをはぐくむために

私たちは、「表現するよろこびをはぐくむ」という想いのもと、筆記具・描画材を開発し世界中の人々に提供してまいりました。

これからデジタル化がより加速していけば、人々は、より創造的な生き方をしていくことになります。筆記具・描画材の役割も単に仕事を効率化することから、人の感性を受け止め、人が描くことにより発揮する創造する力を支えるという役割がより期待されるようになります。

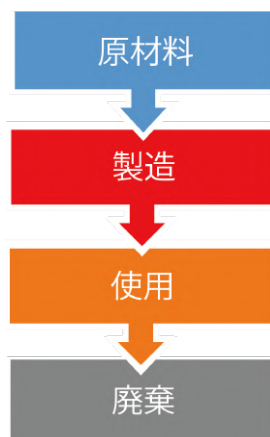
また、いま世界は、気候変動に伴う資源の奪い合いや、生物多様性、廃棄物による環境汚染、貧困や人権侵害などの課題に直面しています。

筆記具・描画材を通じて知性を活性化し、世界の人々の表現するよろこびをはぐくむこと、環境・社会課題に積極的に取り組むこと、二つを同時に取り組むことで持続可能な社会を目指していきます。

カテゴリー	社会課題		解決策
E (環境)	サークュラーエコノミー 12 つくる責任、つかう責任 	リデュース	•包装の簡素化、脱プラスチック化
			•土に戻る生分解性プラスチックの積極的利用
			•紙包装も環境負荷を考慮 (FSC 認証環境紙・印刷の徹底)
			•短期廃棄を前提としない、より長く使用できる製品の開発
		リペア	•部品毎に分解交換可能な構造設計の研究
		リユース	•廃材から顔料を抽出する
		リサイクル	•環境負荷を下げるリサイクル材の調達と製品開発
•素材ごとに分解可能な構造設計の研究			
•資源循環の観点からの廃棄を出さないビジネスモデルの創出			
その他	•フェアトレード：紛争地域以外や認証を受けた原材料の調達		
S (社会)	4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダーの平等を実現しよう 10 人や国の不平等をなくそう 17 パートナリーシップで目標を達成しよう 		•ユーザーイノベーション
			•インクルーシブデザイン・プロジェクト
			•途上国への製品協賛
			•アートフェスティバルへの協賛
			•造形教育への想い・世界児童展
			•校舎の思い出プロジェクト
			•女性に活躍の場を

・ サークュラーエコノミー・シフト

私たちは、大量生産大量廃棄を前提とし資源を直線的に消費し続けるリニアエコノミー（線形経済）から、廃棄物ゼロを目指すサーキュラーエコノミー（循環経済）へと移行するべきという立場を支持します。今後、サーキュラーエコノミーの優先順位に従い、商品やサービスなど企業活動を変革していきます。



リニアエコノミー



サーキュラーエコノミー

・ 世界児童画展

1970年より公益財団法人 美育文化協会主催の「世界児童画展」に協賛しています。同展は、大阪万国博覧会会場にて第1回が開催され、2021年に第52回を迎えました。例年、世界40の国と地域から約8万点（国内約4万点、海外約4万点）を超える作品の応募がある、世界最大規模の児童画コンクールです。集まってくる子どもたちの絵を通して、感性豊かな子どもの成長と美術と親しむ豊かな社会づくりに貢献しています。

・ 校舎の思い出プロジェクト

キヤノンマーケティングジャパン株式会社と協働で、建て替えや統廃合により取り壊される小学校を対象に、2014年から校舎での最後の思い出づくりをサポートするプロジェクトに取り組んでいます。児童が校舎全体をキャンバスとして絵を描き、彩ります。近隣の地域住民、卒業生、保護者の皆様とも協力しながら、「描く・書くこと」「写真を撮ること」の楽しさを体験していただき、児童の皆さんが潜在的な創造力を発揮するきっかけにもなっています。2022年3月までに、全国39の小学校で実施をし、延べ1万人以上の児童がこのプロジェクトに参加しました。

・ 途上国への製品協賛

私たちは、NPO、民間団体などを通じて、発展途上国の子どもたちへの教育のために、画材や筆記具の協賛を行っています。当社は「戦後の日本の子どもたちには描く教育が必要」との理念で創業した企業であり、長く日本の造形教育普及に関わってきたとの自負があります。途上国の子どもたちとも、画材の提供を通じて、表現するよろこびをはぐくんでいきます。

・ インクルーシブデザイン・プロジェクト

インクルーシブデザインとは、量産品をできるだけ多くの人に「使えるように」するユニバーサルデザインとは異なり、障がい者でも「使えるように」する機能性の追求だけでなく、「本当は何を望んでいるのか」同じ目線で考えて深いニーズや価値観を掘り起こして解決するデザインアプローチです。私たちは2021年から、「表現するよろこびをはぐくむ（Our Vision）」を具現化する目的で、「誰ひとり取り残さず」多様な人々をターゲットに、「インクルーシブデザイン・プロジェクト」に取り組んでいます。

表現するよろこびをはぐくむため に、比類なき道具を生み出す

表現の可能性を広げてきたぺんてるの歴史

1951年、画家のアドバイスから定着性の良いくれよんと、表現力豊かなパステルの利点を組み合わせた「PENTEL」を製品化しました。

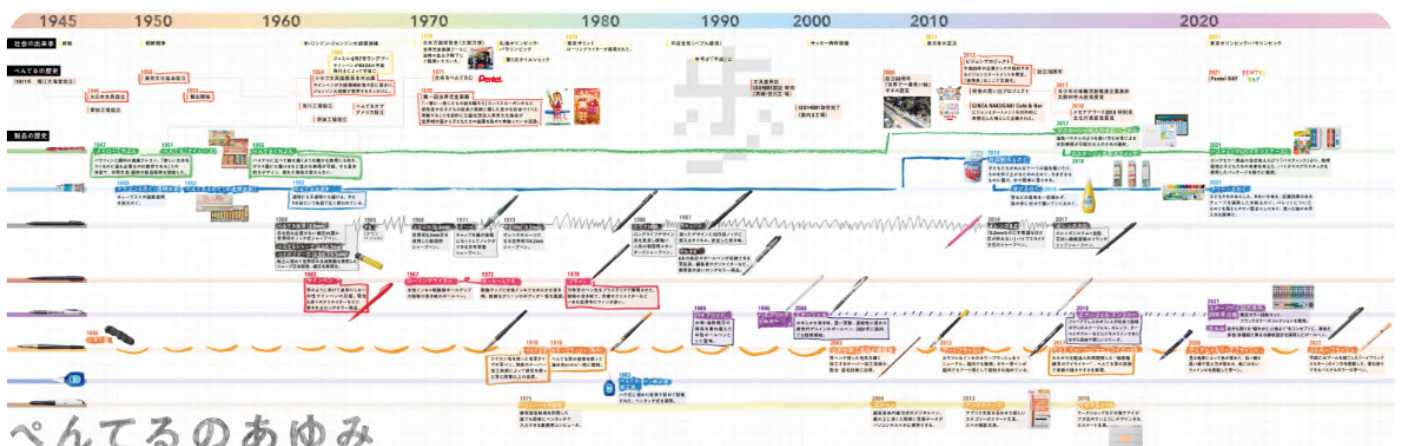
1955年には、現在まで広く使われている「ぺんてるくれよん」を発売しました。画材の製品化に甘んじることなく、ぺんてるは人々が表現するよろこびをはぐくむために、より豊かに、よりワクワクし、そして誰もが手に取って使いたくなる、革新的な筆記具の開発に邁進します。

そして、世界初の0.9mmのハイポリマー芯とノック式シャープペンシル「ぺんてる鉛筆」を1960年に、米国ジョンソン大統領が使用したのをきっかけに世界的ヒット商品となった「ぺんてるサインペン」を1963年に発売しました。

高度経済成長期には、水性ボールペン「ボールぺんてる」、「ぺんてる筆」、「ぺんてる修正液」、中性ボールペン「ハイブリッド」を、2000年代には今日の主力ブランドである「エナージェル」や「オレンズ」など、時代を牽引する画期的な筆記具を世に送り出しました。

世界中の人々の想いを表現できる、敷居が低く使いやすい筆記具を開発し、お届けする。それが70年以上の歴史のなかで培われたぺんてるの使命です。

時代が変わっても、より敷居が低く、より表現するよろこび溢れた「表現具」を目指していきます。



TOPICS

1946年の創業以来、ぺんてるは多くの筆記具を通して、世界中の人々の表現することをお手伝いしてきました。

1947年 メイロークレヨン

パラフィンと顔料の国産クレヨン。「新しい日本をつくるのに最も必要なのは教育である。」との決意で画材の国内生産を始めた。



1960年 ぺんてる鉛筆

芯を削る必要がない細芯内蔵のノック式シャープペン。
「ハイポリマー芯」により芯の極細化に成功するとともに、実用性の高い新しい筆記具が実現した。



1960年 ハイポリマー芯

粘土に替わり世界初の合成樹脂を使用した革新的なシャープペンシル替芯(0.5/0.7/0.9mm)。極細の実現により、鉛筆のように削る必要がなくなった。※0.7/0.5は1962年に誕生。



1963年 サインペン

裏書きせずに、筆のようにサラサラと紙に書けるペンとして、誕生した中綿式極細水性サインペンの元祖。サインペンは一般名称になるほど広く世界に普及した。



1972年 ボールぺんてる

世界初の樹脂チップ水性ボールペンでなめらかな書き味。斬新なグリーンボディが一世を風靡。世界中の人に愛用され累計販売10億本に達するロングセラー商品。



1972年 ぺんてる筆

ナイロン毛を使った毛筆タイプの筆ペン。独自のテーバー加工技術によって獣毛を使った筆と同等以上の品質。



1979年 プラマン

唯一無二の書き味のプラスチック万年筆として誕生。独特の書き味で、作家やクリエイターなど、今も世界中にファンが多い。



1983年 ぺんてる修正液

ハケ式にかわり、世界で初めて開発された。ペンタッチ式を採用。



1986年 グラフ1000

発売以来、30年以上にわたり日本をはじめ、世界中の設計やデザインのプロに選ばれ続け、ロングライフデザイン賞を受賞した根強い人気の製図用スタンダードシャープペン。



1987年 **スマッシュ**

グラフ1000の技術を一般向けシャープペンに応用した。10万回ノックに耐えるタフネス、安定した書き味。近年シャープペンのヘビーユーザーである中高生の間でリバイバルヒットした。



1989年 **ハイブリッド**

水性と油性両方の長所を兼ね備えた中性ボールペンとして登場。



2000年 **エナージェル**

滑らかな書き心地、濃くくっきりと書け、且つ速乾性に優れたゲルインキボールペン。世界的に大ヒットし、発売後20年経った今でも売れ続けている。



2012年 **アートブラッシュ**

1978年に発売された海外向けホビー用のカラフルなインキのカラーブラッシュをリニューアル。国内でも販売。カラー筆ペンが国内でもアート用として認知され始めている。



2013年 **アンキスナップ**

アプリと文具を合わせた新しいカテゴリーのスマート文具。スマホ暗記文具。



2014年 **オレンズ**

「0.2mmなのに不思議なほど芯が折れない」パイプスライド方式のシャープペン。



2015年 **ゆびえのぐ**

子どもたちが自由に表現を楽しむことができるように開発されたゆびえのぐ。筆などの道具を一切使わず、指や手に付けて描いていくえのぐ。容器にはマヨネーズの容器が採用されている。



2017年 **オレンズネロ**

極細芯なのに折れにくいオレンズシステムに加え、自動製図機の技術を応用した自動芯出し機構を搭載。べんてるが半世紀にわたり追求してきた技術を結集した究極のフラッグシップシャープペン。



2018年 **エナージェルインフリー**

テレワークやフリーアドレスといった働き方の変化から発案された製品。既存概念から離れ、アイデアを生み出し表現するためのツールとしてデザインされている。クリア軸のボディで一目でインキ色がわかることにより、直感的に手に取れ、ストレスなく紙に向かうことができる。



2018年 くみかえノート

ワークショップなどの場でアイデアが生まれやすいようにデザインされたスマート文具。



2021年 カルム

自分も周りも“穏やかに心地よく”をコンセプトに掲げ、単色と多色・多機能ボールペンで異なる静音設計を採用した静音油性ボールペン。ボールペンのノック時の操作音を従来製品に比べて66%低減。



独創的な商品を生み出す研究

技術研究所では、お客様に「べんてるならではの」と喜んでいただけるような、独創的な新製品を目指して研究を進めています。新たなものを生み出す研究テーマ捻出のために、定期的な市場調査の実施や、新製品発表会での説明員として直接お客様の声を伺うなど、お客様目線を養い、市場動向を正しくとらえる活動をしています。研究過程では、さまざまな技術的な壁が現れることもありますが、そんな時には、チームで自由にアイデアを具現化し、技術検証を行っています。その結果、個人では思いつかないアイデアが生まれ、課題解決への大きな一歩となります。これからも途中であきらめることなく、アイデアを活かした課題解決を推進して、研究を重ねていきます。



QCサークル活動

工場部門を中心にQC(Quality Control=品質管理)教育の実践の場として、1965年よりQCサークルによる改善提案活動を推進しています。2022年度は、吉川工場12サークル、茨城工場31サークルの計43サークルが活動しています。QCサークルの全国大会や関東大会、茨城地区、埼玉地区でも自動車や電機メーカーに混じって金賞を受賞しているほか、出場回数でも上位に名を連ねています。



JHS部門 全日本選抜QCサークル大会



QCサークル茨城地区大会

働きやすい職場環境づくり

ワーク・ライフ・バランスの実現

仕事と家庭を両立させるためには、所定労働時間の適正化はもちろん、部署や職種にとらわれずに制度を活用できる環境づくりが大切です。

現在、産休・育休取得率は、およそ100%となっており、さらに職場復帰後も、約半数以上の方が育児のための勤務時間短縮制度を活用しています。介護休職については、要介護状態にある家族を介護する必要があるときは通算93日まで取得することができます。なお休職中は、リモートアクセスサービスを通じて自宅からでも情報を共有するとともに、相談にも随時対応できる体制を整え、仕事と家庭の両立、働く環境の整備に努めています。

また、アフター5を充実させるために、社内のクラブ活動を支援しています。2022年度は、22クラブがさまざまな形で活動しています。また従業員個人参加で市民マラソン大会などにべんてる製品の仮装で参加しており、べんてるらしさを発揮しています。このような活動が風通しの良い社内コミュニケーションの拡がりにつながっています。



マラソン大会にくれよんの仮装で参加する従業員



クラブ活動(バスケットボール)

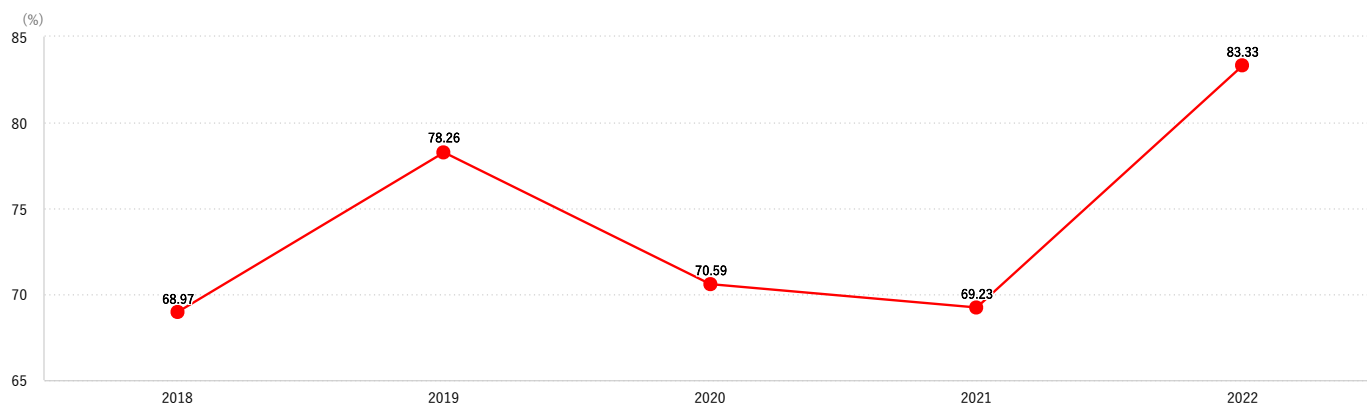
自己申告制度

会社と社員の相互理解を深め、公平性、納得性のある処遇の実現と、将来の自己実現の一助となるよう、自己申告制度を実施しています。面談希望者とは人事部門責任者が必ず面談を行い、仕事内容、能力開発、配置・異動に関する社員の意見や希望を人事部門に直接伝える仕組みがあります。

定年再雇用制度

2006年度より定年退職者の再雇用制度を導入しています。2013年の高齢者雇用安定法改正に伴い、希望者はべんてるグループ内で再雇用されることとなり、2022年度は定年退職者のおよそ80%が再雇用制度を利用しました。定年後の生活の安定を図るとともに、長年当社で培った経験やスキルは技能の継承や後方支援などで活かされています。

再雇用者数推移



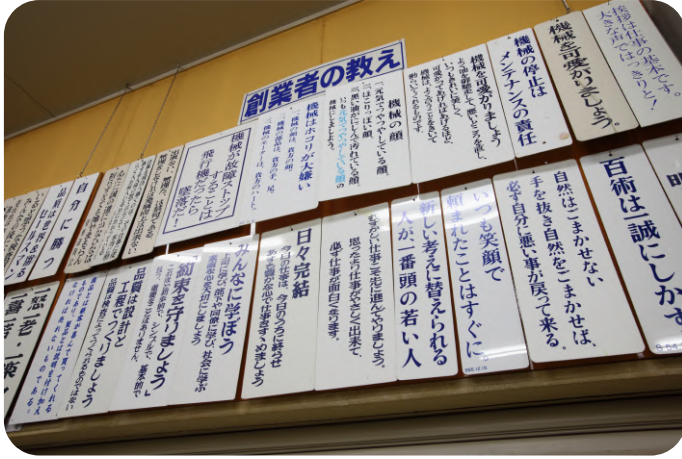
海外トレイニー制度

海外トレイニー制度とは、企業の中で将来海外拠点に赴任する可能性の高い若手社員を選抜し、「トレイニー」として一定期間、自社の海外現地法人へ赴任させる制度です。当社でも海外出向者向けの研修制度と合わせて海外トレイニー制度を運用しており、制度利用者は将来の海外部門を担う人材として育てています。

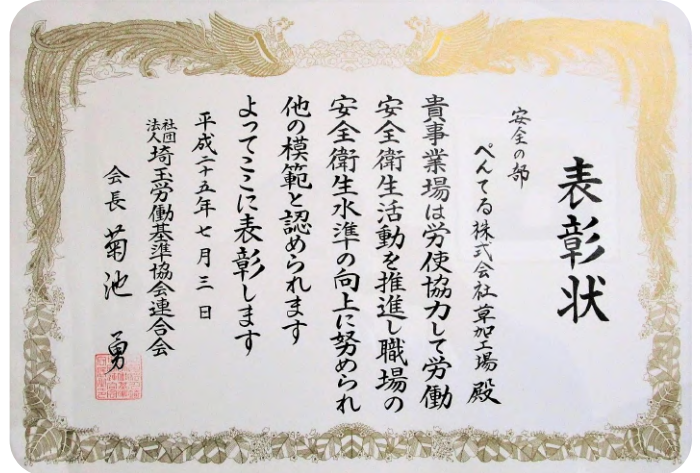
労働安全衛生

従業員の安全で働きやすい環境を確保するため、事業所ごとに安全衛生委員会を設置し、毎月のテーマを掲げて労働安全衛生活動に取り組んでいます。3工場については、特に機械などを扱う製造現場での取り組みに重点を置き、毎月工場巡回を実施し、危険箇所の是正に努めています。

最近では、安全衛生水準をさらに高めるために、労働安全衛生リスクアセスメントやメンタルヘルスの取り組み、また、健康診断結果に基づく有所見者への健康指導を行っています。今後も本社、3工場で相互に情報を交換し、労働災害ゼロの元気で健康な職場づくりを目指し、同活動を推進していきます。



創業者の教え



労働安全衛生活動の推進による表彰

事業を活かした社会貢献

乳がん撲滅キャンペーンへの参加

イギリスペンてるでは、2006年から、乳がんの早期発見・診断・治療の大切さを伝える乳がん撲滅キャンペーンに参加しています。軸色がピンク色の製品の売上げの一部を、イギリス最大級の乳がん慈善団体である「Breast Cancer Now (BCN)」に寄付することで、乳がん撲滅への協力をしています。2021年12月で、累計約1,542千ポンド(日本円で約2.6億円/1ポンド=168円で計算)を寄付することができました。

PentelUK @PentelUK · 19 Oct 2018
We're celebrating #wearitpink for all those who are battling or have battled breast cancer. We are proud to support @breastcancer now and have donated over £1.3 million through sales of our EnerGel special edition pink pen bit.ly/2R3dCJX



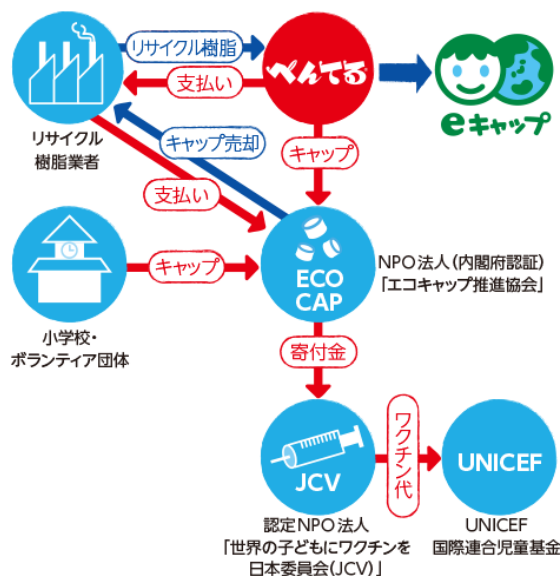
乳がん撲滅月間にSNSをピンク色に染めるイギリスペンてるのスタッフ



**BREAST
CANCER
NOW** The research
& care charity

エコキャップ運動の応援

eキャップえのぐ(ラミネートチューブ)の製造・販売を通じて、世界の子どもたちへワクチンを届ける「エコキャップ運動」を応援しています。eキャップの材料は、エコキャップ運動で集められたペットボトル・キャップの再生材であり、この材料費の一部が、世界の子どもたちへワクチンを届けるために使われます。



すい臓がんアクションネットワークへの活動支援

ペンてるオブアメリカでは、2013年から、すい臓がんの早期発見と治療研究、および患者・家族のサポートを目的とする非営利法人PanCANへの活動支援として、エナージェルの売り上げの一部を寄付しています。また、毎年PanCANのシンボルカラーであるパープル軸の名入れ製品を寄付し、彼らの活動に使用されています。さらに、従業員もすい臓がんに打ち勝った人を称え、すい臓がんへの意識を高めるPanCAN主催のチャリティーウォーク&ランイベント「パープル・ストライド」に毎年参加しています。



「パープル・ストライド」に参加する
ペンてるオブアメリカのスタッフ

KNOW IT. FIGHT IT. END IT.

Pentel and PANCAN are proud to announce that the violet EnerGel-X is now "The Violet Pen of the Pancreatic Cancer Action Network".

Pentel will donate five cents from each purchase of these products to PANCAN.

PANCREATIC CANCER ACTION NETWORK®
FOR MORE INFORMATION, VISIT WWW.PANCAN.ORG.

納涼祭

茨城工場、吉川工場では、毎年8月に、地域社会との親睦を深めることを目的に、従業員が企画から運営までを行う「納涼祭」を開催しています。2019年度は、茨城工場では約2,500名、吉川工場では約1,500名の地域の方々にご参加いただきました。（2020～2022年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催しておりません。）

この納涼祭は、やぐらやステージといった会場の設営、出店の看板づくりから食材調理、さらに、交通整理や分別ゴミ箱の設置なども、従業員が一丸となって取り組むアットホームなお祭りとなっています。

また、お子さま参加のゲームやくじ引きなどのイベントも満載で、来場される多くの方々に楽しんでいただくと同時に地域の方々との交流にも一役買っています。



工場周辺のクリーン活動

国内3工場では、年に数回、周辺の道路や近隣の公園などの清掃活動を実施しています。日ごろの感謝の気持ちを込めて工場の全従業員が参加し、地域に少しでもお役に立てるよう努めています。



海外でのイベント

ユーロペーター (フランス) では、毎年6月に従業員とその家族や地域の方々、お取引先様を招待し、ユーロ工場前広場にて「メシュイ」^{※1}を開催しています。当日は、社員手づくりのゲームや出し物もたくさん催され、食事をしながら交流を深めています。



※1:メシュイ

アラブ系伝統行事がフランスに伝わったもので、地域や家族など、大勢で子羊の丸焼きやバーベキューを楽しむ野外行事です。

本社・工場見学の実施

茨城工場では、近隣の小中学生をはじめとして、地域社会、お取引先様などに対して、工場見学を実施しています。筆記具や画材が生産されている現場を間近で見させていただき、へんてるものづくりに対する姿勢や環境保全への取り組みをお伝えしています。

また、当社では、毎年、中学校の修学旅行の課外授業として、実際の仕事現場を見学していただき、社史や事業概要の説明を行うとともに、学生からの質問に答え、主体的に学んでいただく機会を提供しています。



中学生・高校生の職場体験

地域貢献の一環として、中学生の職場体験や高校生のインターンシップを受け入れています。働くことを通じて、勤労意欲や職業観を身につけていただけるよう、次世代の人材育成にも努めています。



中学生職場体験(吉川工場)

写生会・絵画教室

毎年、全国各地で開催される写生会に協賛をしています。また、海外でも絵画教室を開催するなど、積極的に活動を展開しています。

よこはまファミリー写生大会

当社は毎年4月に開催される、横浜市PTA連絡協議会主催の「よこはまファミリー写生大会」に協賛しています。2022年は、応募形式での開催となり、約2,000点を超える応募がありました。同写生大会では、筆洗いの水が必要となりますが、その汚水を勝手に公園に捨てることは当然厳禁です。そこで、べんてるの新入社員が筆洗い用の水汲みや、汚水の処理をお手伝いしています。社会人として、初めて体験する社会貢献活動です。参加者の皆様から、「お疲れさま」と声をかけていただき、とても有意義な名物研修となっています。(2022年は応募形式での開催のため、研修は実施しておりません。)



世界児童画展

当社は、1970年より公益財団法人 美育文化協会主催の「世界児童画展」に協賛しています。同展は、大阪万国博覧会会場にて第1回が開催され、2021年に第52回を迎えました。例年、世界40の国と地域から約8万点（国内約4万点、海外約4万点）を超える作品の応募がある、世界最大規模の児童画コンクールです。集まってくる子どもたちの絵を通して、感性豊かなこどもの成長と美術と親しむ豊かな社会づくりに貢献しています。



環境綱領

当社では、地域社会のよき企業市民として企業の社会的責任を果たすため、1996年に環境綱領を制定し、1997年に環境管理・推進の組織を立ち上げました。主に環境への負荷が大きい工場での活動を推進しており、2003年より全社環境管理委員会を組織し、全社規模での取り組みとしています。

環境綱領(1996年制定)

●基本理念

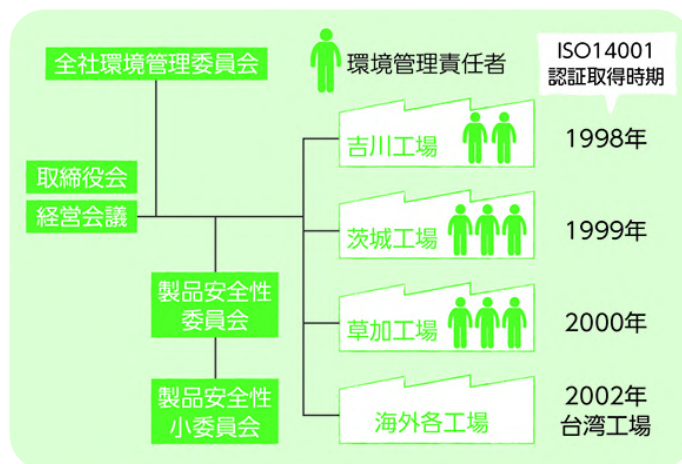
べんてるは地域社会のよき企業市民として、企業の社会的責任の重要性を認識し、地球環境保護と環境汚染防止を企業経営の重要な理念として、全社員の環境意識を高め、社会運営の全ての面で人と環境に調和した企業活動を推進します。

●行動指針

1. 企業活動全般にわたり、設計開発から廃棄にいたる全ての段階において環境保全を考慮した製品とサービスを開発し、提供します。
2. 環境に関連する国内外の関連法及び協定、約束を遵守し、継続的環境の保全と向上を図ります。
3. 海外事業展開に際しては、相手国の環境保全の確保に努めます。
4. 新規事業の計画に当たっては、継続的なアセスメントを実施し、環境保全に努めます。
5. 社員に対しては、環境保全に対する情報の提供と教育を行うとともに、顧客、行政、地域社会に対しても環境保全のために必要な情報を提供します。
6. この方針を全社員、全組織に周知徹底するとともに、環境保全に関する知識と技術の向上に努め、全社一丸となった環境管理活動を推進します。

環境マネジメント体制

環境綱領の基本理念をもとに、工場やオフィスにおいて、環境経営および環境保全の取り組み強化を目的として、環境マネジメント体制の整備とシステムの構築・運用を行っています。ISO14001[※]を国内3工場では1998年から順次、海外では2002年に台湾工場において取得し、継続的な改善を実施しています。



環境マネジメント体制

※ISO14001：企業活動、製品およびサービスの環境負荷の低減といった環境パフォーマンスの改善を継続的に実施するシステム（環境マネジメントシステム）を構築するために要求される規格です。

環境教育の推進

全社員を対象に、環境に関する基礎知識や環境保全への意識向上のための環境教育を行っています。さらに環境推進のリーダーへは、環境に係る法規制や専門技術、技能教育、内部環境監査員認定教育を実施しています。

内部環境監査と改善活動

各工場の環境管理責任者を中心に、内部環境監査員がISO14001や環境マネジメントシステムに関する適合性をチェックするとともに、各部署からの提案を吸い上げ改善の機会としています。また、QC（Quality Control＝品質管理）サークル活動を通して環境改善提案や壁新聞コンクールなどを行い、社員一人ひとりが参加するボトムアップ活動が実施されています。

法令順守評価

化学物質の適正管理

RoHS 指令^{※1}やREACH 規制^{※2}など化学物質に関する規制を確実に遵守するために、個々の製品や原材料に使用されている化学物質の安全性についてデータベース化し、化学物質管理システムの構築を進めています。

「GHS^{※3}対応SDSシステム」により、「化学物質ネガティブリスト」および「化学物質一覧表」と照らし合わせ、サプライヤーから提出された原材料の化学物質含有量の調査・把握などを迅速に行っています。

※1:RoHS指令

電子・電気機器における特定有害物質（鉛、水銀など6物質）の使用制限についての欧州連合（EU）による指令です。

※2:REACH 規制

欧州における化学物質の総合的な登録・評価・認可・制限の制度です。

※3:GHS

2003年7月に「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」(The Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals :GHS)が国連勧告として出されました。GHSは化学品の危険有害性を一定の基準に従って分類し、給表示などを用いて分かりやすく表示し、その結果をラベルやSDS（Safety Data Sheet:化学物質等安全データシート）に反映させ、災害防止および人の健康や環境の保護に役立てようとするものです。



設備などの適正管理

当社では、環境（水質、大気、土壌、騒音振動、オゾン層破壊、資源エネルギー保護など）に影響を与える設備を、法規制あるいはそれ以上の厳しい基準での維持管理をしています。設備ごとに管理項目・基準・周期そして管理方法を定めています。

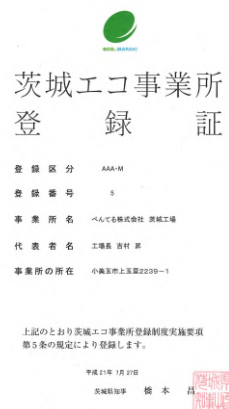
社外認定制度の取得

ISO14001認証取得をはじめ、地球に優しい企業認定制度やエコ事業所登録、リサイクル優良事業所の継続認定（以上、茨城県）、エコ通勤優良事業所認定制度（公共交通利用推進等マネジメント協議会）など、公共団体や第三者機関の認証制度を積極的に活用し、当社の環境マネジメントシステムの資質を客観的に評価し、システムの有効性向上に努めています。

茨城工場では、埋め立て処理をしていた物質を使用している製品の素材変更などを実施し、2011年度からリサイクル率100%とゼロエミッションを毎年達成し、茨城県リサイクル優良事業所の認定を継続して受けています。



茨城県リサイクル 優良事業所認定証



茨城エコ事業所登録証



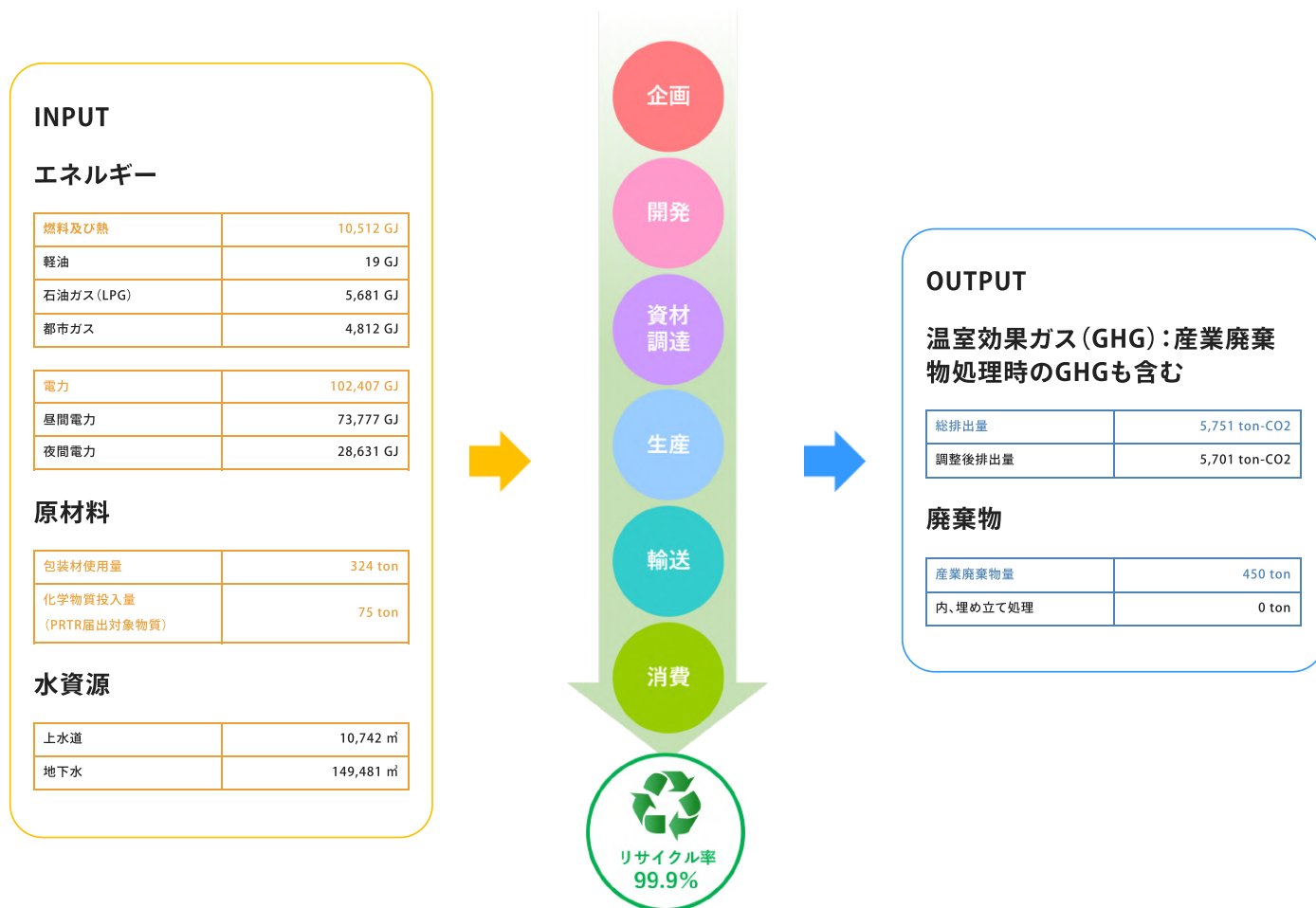
エコ通勤優良事業所認証

事業活動と環境負荷の関わり

当社の事業活動のプロセスにおいて、原材料やエネルギー、水といった地球資源を利用する（インプット）と同時に、CO₂や廃棄物などが排出されています（アウトプット）。

当社では、事業活動に伴う環境への影響を正しく把握し、製品の開発から生産、輸送、消費、リサイクルされるまでの全事業活動を通して、限りある地球資源を大切に使用し、環境負荷の低減に取り組んでいます。

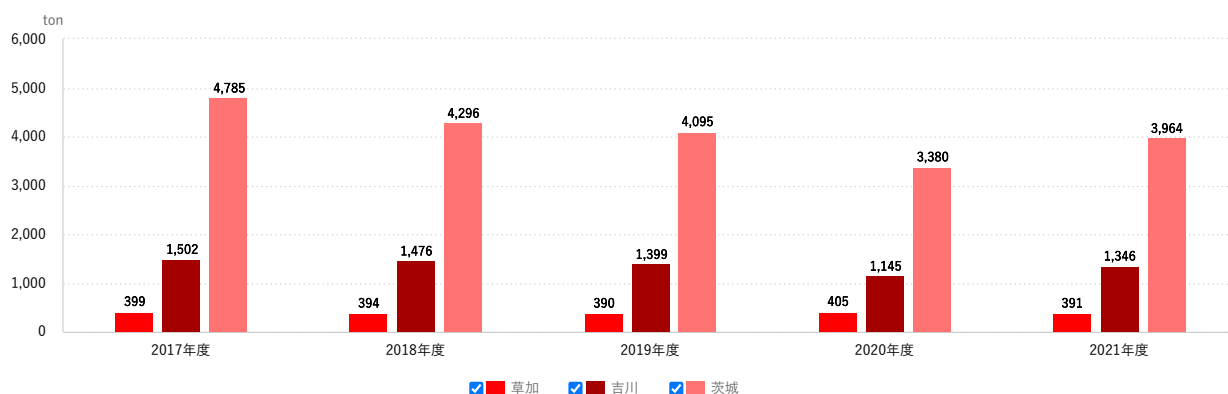
・ 事業活動と環境負荷（2021年度）



CO2排出量の低減

当社では電力をはじめとしたエネルギー消費の削減や、再生樹脂の活用、廃棄物削減などによりCO₂排出量抑制に取り組んでいます。また国内3工場では、毎年CO₂排出量削減目標を定め、全社一丸となってCO₂排出量削減のための取り組みを進めています。

工場別のCO₂排出量※



※東京電力エナジーパートナーのCO₂排出係数(調整後)を使用

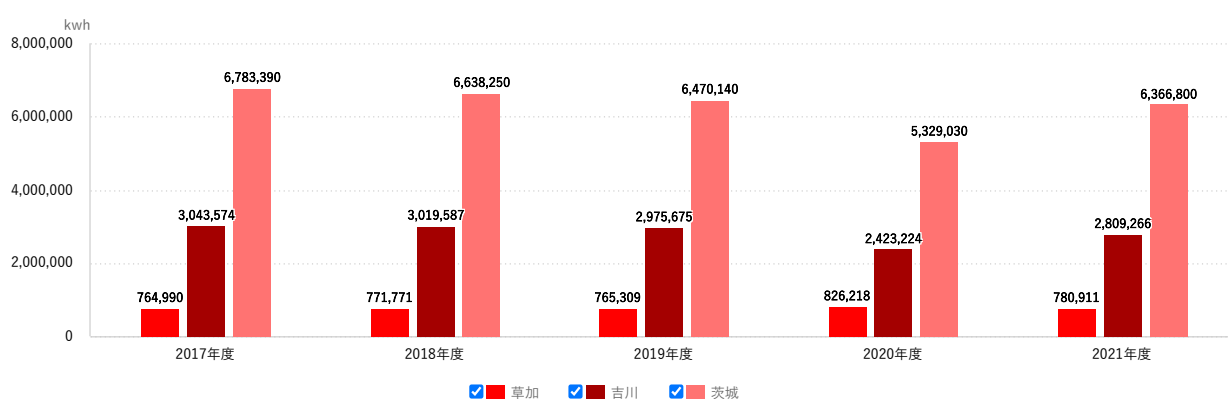
省エネルギーへの取り組み

2010年の省エネ法改正により当社は特定事業者、茨城工場は第二種エネルギー管理指定工場※に指定されました。国内3工場では、消費電力の少ない製造設備の調達・切替、製造工程の効率化に取り組んでいます。吉川工場では蒸気配管や替芯乾燥機の改善、茨城工場ではコンプレッサー(空気圧縮機)の運転効率化で、消費電力削減を進めています。また、リアルタイムで電力消費監視を行い、計画値を超過しそうな場合は、使用抑制措置を行っています。

※第二種エネルギー管理指定工場

年度のエネルギー使用量が原油換算で1,500kL以上3,000kL未満の工場・事業所は、「第二種エネルギー管理指定工場」に指定されます。

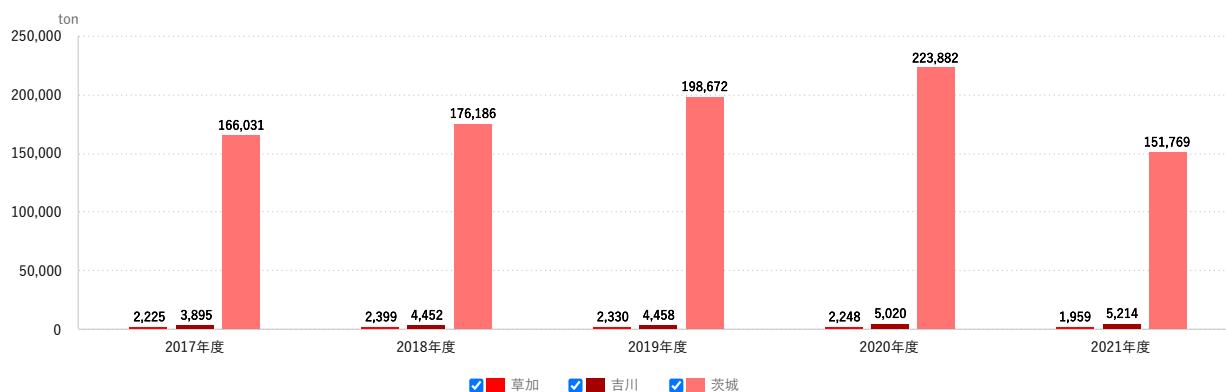
工場別の電力使用量推移



水資源使用量の削減

茨城工場では、水の使用量、排水量を継続的に管理しています。製造設備の冷却水の循環利用や節水などの取り組みにより、使用量の削減に努めています。

工場別水使用量推移



廃棄物の削減とリサイクル

当社ではゼロエミッションを目指し、徹底した無駄の排除による廃棄物の削減とリサイクルの推進に取り組んでいます。

茨城工場では2010年度のリサイクル率が99.7%でしたが、埋め立てせざるを得ない廃棄物となる材料を使用しない設計に変更することで、2011年度以降は継続してリサイクル率100%を達成しています。

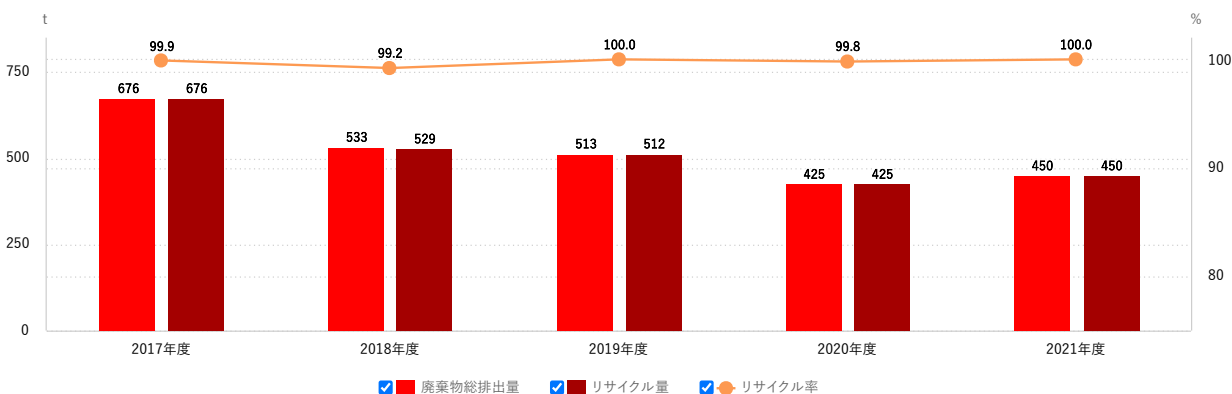
また、流通段階を終えるとほとんど廃棄される梱包材については、従来のダンボール箱から再生紙の折箱へ切り替えたり、折り畳みコンテナを使用することにより、廃棄物量の削減を進めています。

さらに、お客様が使用する時にゴミとなる製品パッケージは、すべてリサイクル材を使用しており、専用設計を行うことで無駄を省き、使用材料の少量化も進めています。

・ゼロエミッションの取り組み

- ・ 廃棄物の分別収集およびそれによる有価物価
- ・ プラスチック廃棄物の高炉原料化、セメント材料へのリサイクル
- ・ 生ゴミのコンポスト処理
- ・ 蛍光灯のリサイクル

3工場合計廃棄物量とリサイクル量・率の推移



※2017年度は、OEM製品の大量受注により廃油が大量に発生したため、例年に比べ廃棄物総排出量が高い数値となった。

生物多様性の保全

事業活動による直接的・間接的な生物多様性への影響を認識し、工場からの排水が生態系に影響を与えていないかどうかを常に把握し、評価しています。

工場排水によるホタル育成

茨城工場では、1964年の稼働開始以来、工場排水が流入する霞ヶ浦の水環境保全のための工場排水浄化に取り組み、浄化した工場排水による魚類の飼育を続けてきました。2008年、水環境保全の進化を目指して排水浄化設備を更新し、工場内に設置したビオトープにてホタルの育成に取り組みました。2009年からは毎年羽化し、初夏の夜空を舞っています。茨城工場の排水が清流に棲むホタルが生息できるまで浄化されたことを証明しています。



茨城工場内のビオトープを舞うホタル



茨城工場内で羽化したホタル

最終放流槽でのアユの飼育

ホタルの育成に引き続き、工場排水の最終放流槽のコケ付着を防止するため、2011年よりアユの飼育にも取り組んでいます。毎年5月上旬頃に稚魚を最終放流槽に放し、8月頃には20cmを超える大きさにまで成長します。

アユが息できる水質の目安としてBOD※ 平均値が3mg/L 以下という指標がありますが、工場排水は清流と呼べるレベルであることが十分証明できました。また、成長したアユは納涼祭で塩焼きにし、地域の方々に美味しく召し上がっていただいています。

※ :BOD

Biochemical Oxygen Demand (生物学的酸素要求量) は、微生物が水中の有機物を酸化分解するときに必要な酸素の量で、主に河川の汚濁指標として使用されます。



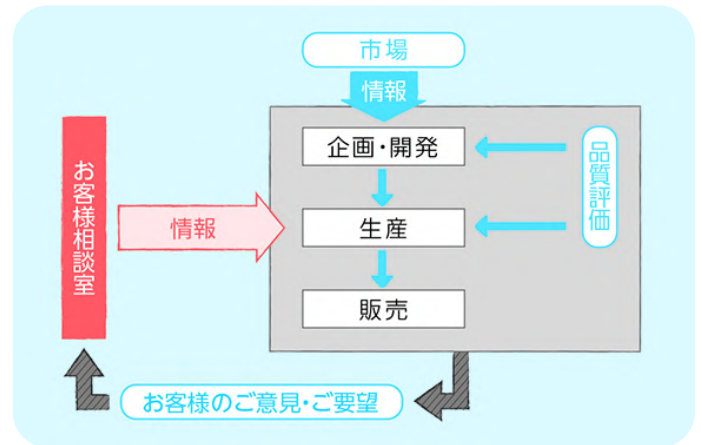
最終放流槽で元気に泳ぐアユ



納涼祭で好評だったアユの塩焼き

お客様相談室

当社では、「お客様相談室」を設置し、お客様からのご意見・ご要望に対し、きめ細やかに対応することを目指しています。お問い合わせは、製品の使い方から製造に関する質問までさまざまですが、中でも、汚れの落とし方やリフィルの交換といったお問い合わせの頻度が高いものについては、公式ホームページに掲載し、必要な時に必要な情報をご覧いただけるよう対応しています。



お客様相談室の体制図

お客様の声から

国内では、販売店様やお客様相談室を通して、毎日さまざまなご意見やご要望をいただいています。また、世界21の販売拠点を介して、地域や国ごとの規制や使い方の特徴など、現地ならではの情報も寄せられています。これらのご意見やご要望は、当社にとってなにより貴重な財産であると考えており、迅速に経営トップへ伝えるとともに、関係部署での共有を図り、絶え間ない品質改善や新製品の開発に結び付けています。

ボールペン替芯パッケージの変更(国内)

「どの替芯を買えば良いのか分からない」、「何色のインキが分かりづらい」という販売店様やお客様の声をもとに、購入時に必要な情報を整理し、適合商品の表記追加と、インキ色に合わせたパッケージデザインへ変更しました。



デザイン変更前

デザイン変更後

お客様に喜んでもらえる価値への取り組み(海外)

世界各国でFGI (Focus Group Interview)を行っています。グループ市場の嗜好、さまざまな消費者層別の好みを把握し、お客様目線でより喜んでもらえる製品づくりやサービスと販売活動を目指す目的で実施しています。



Focus Group Interviewの様子

品質保証体制

品質保証体制

当社は、「優れた品質の製品であれば、国境や人種に関係なく世界中のお客様にお使いいただける」との信念のもと、絶えず世界最高品質の製品を目指して品質保証活動を行っています。現在は、品質保証委員会を核に、安全性タスクなどの活動を行い、全社的な品質管理活動を実施しています。品質保証上のステップを明確にし、その役割を認識したうえで、全体として品質保証を効果的・効率的に実践するためのシステム(体系)を考え、その最適化を図ることにより、お客様に満足していただける製品を追求し、生産し、保証しています。

1976年には文具業界で初めてデミング賞^{※1} 実施賞を受賞し、現在は国内の全工場、海外の主要な生産拠点においてISO9001^{※2} 認証を取得しています。

1995年	茨城工場 吉川工場
1998年	電子機器事業部
1999年	機設事業部 台湾 台北工場
2007年	インド工場
2009年	メキシコ工場
2015年	タイ工場

ISO9001認証取得状況

※1:デミング賞

戦後の日本に統計的品質管理を普及させ、日本製品の品質を世界最高水準に押し上げる大きな礎となった故デミング博士の業績を記念して、1951年に創設された総合的品質管理に関する世界最高ランクの賞です。

※2:ISO9001

品質管理および品質保証のためのISO(国際標準化機構)規格として1987年に制定されました。

化学物質規制への取り組み

近年、RoHS指令^{※3}やREACH規制^{※4}など、製品に使われる化学物質に関する規制が強化されています。当社では企画・開発段階で、販売する各国の規制内容に基づき、各規制の化学物質の確認を実施し、JIS規格はもとより、ISO8124-3^{※5}やRoHS指令に準拠した社内基準で品質設計を行っています。特に製品に含有される重金属に関しては、企画・開発段階はもちろんのこと、設計変更の際には、ICP発光分光分析や蛍光X線分析などにより確認を行っています。

※3:RoHS指令

電子・電気機器における特定有害物質(鉛、水銀など6物質)の使用制限についての欧州連合(EU)による指令です。

※4:REACH規制

欧州における化学物質の総合的な登録・評価・認可・制限の制度です。

※5:ISO8124-3

国際玩具安全基準のパート3。重金属8元素に対して溶出量の基準が設けられています。



ICP発光分光分析



蛍光X線分析

お客様の手に渡るまで

原材料から製品として完成し、お客様の手に渡るまでには、多くの関係企業の協力が必要です。当社は、ビジネスパートナーの皆様と深い信頼を築き、共存共栄を目指し取り組んでいます。

お取引先様とのコミュニケーション

当社の製品は、代理店様や販売店様を通して、お客様へお届けしています。

これらのお取引先様と、より強固な関係を築き一体となって市場を創造するため、文具見本市への参加や店頭デモ販売など多くのイベントを定期的に開催しています。

国内のお取引先様向けには、「べんてる新製品発表商談会」を開催し、新製品に関する情報や販売方針を共有しています。

海外グループ各社では、アジア、ヨーロッパ、アメリカなどブロックごとに、お取引先様向けに、当社の姿勢や取り組み、新製品の紹介や製品知識などに関する講習会を開催しており、信頼関係の強化に努めています。



べんてる新製品発表商談会



欧州代理店会議

協力企業様とのパートナーシップ

茨城工場では製品組立工程を委託している協力工場様を「幸和会」と称し、定期的に品質管理や工程管理についての勉強会を実施しているほか、計画的に異業種の工場見学や外部セミナーなどに参加し、一体となって改善活動を推進しています。

この「幸和会」は、創業者「堀江幸夫」の「品質」に対する思いを受け継ぐため、「幸夫」の「幸」の一字と、お互いの調和と相互理解を深め成長することを目的に命名され、2022年で36年目を迎えます。今後も当社と協力工場様が切磋琢磨し、共存共栄を目指し取り組んでいきます。



「幸和会」勉強会の様子

ガバナンス

コーポレート・ガバナンス

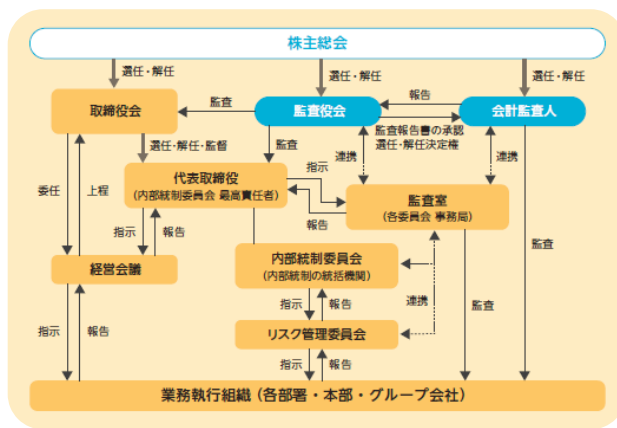
当社では、誠実に健全な企業経営に努め、ステークホルダーの皆様への責任を果たすため、2015年5月に「内部統制システム構築の基本方針」を導入し、コーポレート・ガバナンスの基礎といたしました。

その後、同方針は、内部統制システムの整備運用を定めた「内部統制規定」の制定に伴い、2017年3月に改訂が行われました。

リスク管理委員会の上部組織として、社長、取締役、監査役及び経営戦略室長で構成する内部統制委員会を内部統制の統括機関とし新たに設置しています。

取締役の業務の執行では、取締役会を最高意思決定機関として、定時および臨時に会議を開催し、グループ全体の経営に係る重要事項を審議、決定するとともに、毎週1回程度の経営会議を行い情報伝達の効率化を図り、各取締役が相互に情報共有し、監督する体制を構築しています。

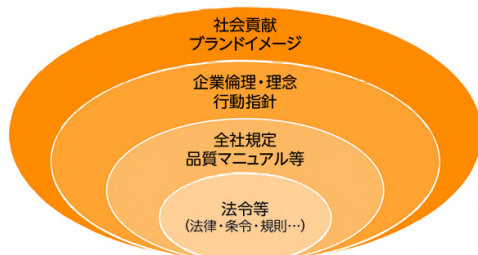
監査体制では社外監査役2名を含む3名で監査役会を構成し、会計監査人や監査室と連携して、業務上の不備や問題点の早期発見と是正、業務の改善に向けたアドバイスや勧告を行っています。



コーポレート・ガバナンス体系図

コンプライアンス

グローバルな事業展開を行う企業として、コンプライアンスは、最も重要な課題の一つとらえています。単なる法令遵守に留まらず、企業倫理や道徳、社内ルール、国や地域の法令や規制の厳守はもとより、正しい行動を実践するためのものと位置づけ、グループ全体での推進を図っています。また、2015年に策定した「べんてるグループ行動規範」を日本だけでなく、全世界の関係会社に配布し、周知徹底を図っています。



コンプライアンスイメージ

べんてるグループ行動規範

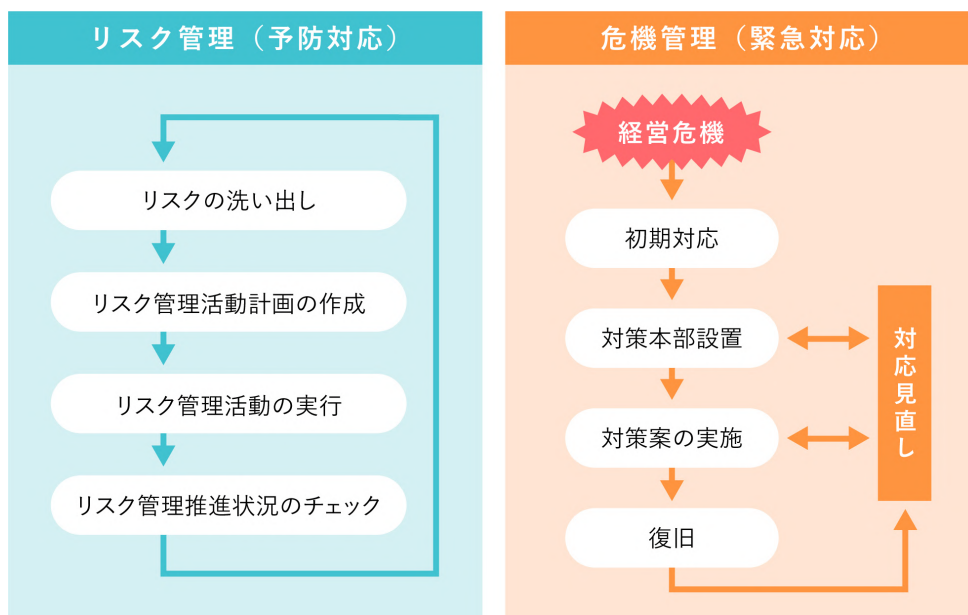
- | | |
|----------------|----------------|
| 1 法令の遵守 | 6 ステークホルダーとの関係 |
| 2 人権の尊重 | 7 取引先との相互発展 |
| 1 雇用における機会均等 | 8 地域との共存 |
| 2 児童労働、強制労働の禁止 | 9 多様性の理解 |
| 3 差別の禁止、人格の尊重 | 10 利益相反の回避 |
| 3 職場環境の整備 | 11 反社会勢力との隔絶 |
| 4 環境保全 | |
| 5 製品・サービスの安全 | |

・ 仕入れ先様との公正な取引

当社は原材料、部品、仕入製品などの購入について、市場の動向を敏感にとらえながら適正な価格で公正な取引を行うことを基本姿勢としています。海外との取引では、全世界より良質の物をタイムリーに調達するために、サプライヤー様の製造現場まで足を運んでいます。また近年、環境問題に対する規制も厳しくなっており、規制に適した購入先を選定し、お客様に満足いただける製品づくりの下支えとして、今後も公正かつ公平な関係を維持しながら努力を重ねていきます。

リスクマネジメント

企業経営に重大な影響を及ぼすさまざまなリスクに対し、定期的に社内のリスク情報を収集し、未然防止に努めるとともに、万一発生した場合、被害の最少化と迅速な復旧対応を図ることを経営の重要課題と考え、国内においては、社長を本部長とした危機対策チームが編成されています。また、海外関係会社からは、随時リスク情報を収集し、その都度対応を関連部署で協議し指導・連絡を行い、リスクの早期発見と対応も行っています。



・ 知的財産の保護と活用

当社の知的財産は、商品開発本部知財管理部が一元的に管理するとともに、研究・開発・製品の各テーマと連動した知財戦略を立案し、遂行しています。特許出願については、研究・開発の成果に応じた出願を実施するとともに、周辺保護の出願も行うことで類似製品の出現の阻止を図っています。また、他人の知的財産を尊重するという意図のもと、研究・開発の各ステップにおける他社権利の調査を行っています。ブランドを保護する商標は、世界100ヶ国以上で出願、並びに権利化しています。模倣品に対しては、研究部門をはじめ、営業部門や海外のグループ会社とも連携し、毅然とした姿勢で製品の保護と権利の保護を図っています。

・ BCP(事業継続計画)策定

全社を挙げてBCP(Business Continuity Plan=事業継続計画)に取り組み、万一の際のリスクを想定し改善を進めています。

厚生労働省や経済産業省のガイドラインを参考に「新型インフルエンザ行動基準」や「新型コロナウイルス対策」を策定し、感染症大流行時における安全確保を最優先とした事業運営体制や、海外出向社員への感染予防の措置などを取り決めました。

国内3工場においては、危機となる状態を未然に防ぎ、緊急時の必要な対応・手順を示した危機管理マニュアルを作成し、万一の事態に備えています。

大地震などの大規模災害に対応した備蓄の確保や緊急連絡網の整備、年に一度安否確認システムを使った実施訓練を全社一斉で行うなど、災害に対する対応も行っています。

情報セキュリティの世界では常に新たな脅威が生まれており、円滑に仕事を続けるためには、常に最新の情報セキュリティ対策を講じる必要があります。情報システム部では、コンピュータ安全規定を設定し、情報資産を過失、事故、災害、犯罪などから守る継続的な活動を行うとともに、従業員へ向けたセキュリティ対策教育や、コンピュータシステム災害対策として、バックアップデータ遠隔地定期保管の実施や、データの復旧作業の訓練を年に数回行っています。



防災訓練(茨城工場)

GRIスタンダード対照表

当ウェブサイトは、GRI (Global Reporting Initiative) 「サステナビリティ・レポート・スタンダード」を参照しています。

✓ 100シリーズ(共通) ✓ 200シリーズ(経済) ✓ 300シリーズ(環境) ✓ 400シリーズ(社会)

100シリーズ(共通)

GRI102:一般開示事項

1.組織のプロフィール

開示事項		掲載箇所
102-1	組織の名称	会社概要
102-2	活動、ブランド、製品、サービス	事業部紹介 商品一覧
102-3	本社の所在地	会社概要
102-4	事業所の所在地	会社概要
102-5	所有形態および法人格	会社概要
102-6	参入市場	会社概要
102-7	組織の規模	会社概要 商品一覧
102-8	従業員およびその他の労働者に関する情報	-
102-9	サプライチェーン	-
102-10	組織およびそのサプライチェーンに関する重大な変化	該当なし
102-11	予防原則または予防的アプローチ	環境綱領 環境マネジメント体制 法令順守評価 ガバナンス
102-12	外部イニシアティブ	法令順守評価 社外認証制度の取得
102-13	団体の会員資格	-

2.戦略

開示事項		掲載箇所
102-14	上級意思決定者の声明	トップメッセージ
102-15	重要なインパクト、リスク、機会	サステナビリティ・ビジョン ガバナンス

3.倫理と誠実性

開示事項		掲載箇所
102-16	価値観、理念、行動基準・規範	社訓 コーポレート・メッセージ べんてるのサステナビリティ 環境綱領 ガバナンス
102-17	倫理に関する助言および懸念のための制度	ガバナンス

4.ガバナンス

	開示事項	掲載箇所
102-18	ガバナンス構造	ガバナンス
102-19	権限移譲	ガバナンス
102-20	経済、環境、社会項目に関する役員レベルの責任	ガバナンス
102-21	経済、環境、社会項目に関するステークホルダーとの協議	-
102-22	最高ガバナンス機関およびその委員会の構成	ガバナンス
102-23	最高ガバナンス機関の議長	-
102-24	最高ガバナンス機関の指名と選出	-
102-25	利益相反	-
102-26	目的、価値観、戦略の設定における最高ガバナンス機関の役割	ガバナンス
102-27	最高ガバナンス機関の集合的知見	-
102-28	最高ガバナンス機関のパフォーマンスの評価	ガバナンス
102-29	経済、環境、社会へのインパクトの特定とマネジメント	ガバナンス
102-30	リスクマネジメント・プロセスの有効性	-
102-31	経済、環境、社会項目のレビュー	ガバナンス
102-32	サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	-
102-33	重大な懸念事項の伝達	ガバナンス
102-34	伝達された重大な懸念事項の性質と総数	-
102-35	報酬方針	-
102-36	報酬の決定プロセス	-
102-37	報酬に関するステークホルダーの関与	-
102-38	年間報酬総額の比率	-
102-39	年間報酬総額比率の増加率	-

5.ステークホルダー・エンゲージメント

	開示事項	掲載箇所
102-40	ステークホルダー・グループのリスト	-
102-41	団体交渉協定	-
102-42	ステークホルダーの特定および選定	-
102-43	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ方法	サステナビリティ・ビジョン お客様相談室 お客様の声から お客様の手に渡るまで 納涼祭 工場周辺のクリーン活動 海外でのイベント 本社・工場見学の実施 写生会・絵画教室
102-44	提起された重要な項目および懸念	お客様相談室 お客様の声から

6.報告義務

	開示事項	掲載箇所
102-45	連結財務諸表の対象になっている事業体	-
102-46	報告書の内容および項目の該当範囲の確定	べんてるのサステナビリティ サステナビリティ・ビジョン
102-47	マテリアルな項目のリスト	-
102-48	情報の再記述	該当なし
102-49	報告における変更	該当なし
102-50	報告期間	2021年度(2021年4月1日～2022年3月31日) ※一部2022年度の活動内容を含みます。
102-51	前回発行した報告書の日付	ビジョンブック:2018年
102-52	報告サイクル	-
102-53	報告書に関する質問の窓口	-
102-54	GRIスタンダードに準拠した報告であることの主張	GRIスタンダード対照表
102-55	内容索引	GRIスタンダード対照表
102-56	外部保証	-

GRI103:マネジメント手法

開示事項		掲載箇所
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	-
103-2	マネジメント手法とその要素	該当なし
103-3	マネジメント手法の評価	-

200シリーズ(経済)

GRI201:経済パフォーマンス

開示事項		掲載箇所
201-1	創出、分配した直接的経済価値	-
201-2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	-
201-3	確定給付型年金制度の負担、その他の退職金制度	-
201-4	政府から受けた資金援助	-

GRI202:地域経済での存在感

開示事項		掲載箇所
202-1	地域最低賃金に対する標準新人給与の比率(男女別)	-
202-2	地域コミュニティから採用した上級管理職の割合	-

GRI203:間接的な経済的インパクト

開示事項		掲載箇所
203-1	インフラ投資および支援サービス	納涼祭 生物多様性の保全
203-2	著しい間接的な経済的インパクト	-

GRI204:調達慣行

開示事項		掲載箇所
204-1	地元サプライヤーへの支出の割合	-

GRI205:腐敗防止

開示事項		掲載箇所
205-1	腐敗に関するリスク評価を行っている事業所	-
205-2	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	-
205-3	確定した腐敗事例と実施した措置	-

GRI206:反競争的行為

開示事項		掲載箇所
206-1	反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により受けた法的措置	該当なし

GRI207:租税 2019

開示事項		掲載箇所
207-1	税務アプローチ	-
207-2	税務ガバナンス、管理、およびリスク管理	-
207-3	ステークホルダーの関与と税に関する懸念の管理	-
207-4	税管轄区域ごとの納税状況報告	-

300シリーズ(環境)

GRI301:原材料

	開示事項	掲載箇所
301-1	使用原材料の重量または体積	事業活動と環境負荷の関わり
301-2	使用したリサイクル材料	べんてるの環境対応商品
301-3	再生利用された製品と梱包材	事業活動と環境負荷の関わり CO2排出量の低減

GRI302:エネルギー

	開示事項	掲載箇所
302-1	組織内のエネルギー消費量	事業活動と環境負荷の関わり
302-2	組織外のエネルギー消費量	-
302-3	エネルギー原単位	-
302-4	エネルギー消費量の削減	CO2排出量の低減 べんてるの環境対応商品
302-5	製品およびサービスのエネルギー必要量の削減	-

GRI303:水と排水 2018

	開示事項	掲載箇所
303-1	共有資源としての水との相互作用	事業活動と環境負荷の関わり CO2排出量の低減
303-2	排水に関連するインパクトのマネジメント	生物多様性の保全
303-3	取水	-
303-4	排水	-
303-5	水消費	事業活動と環境負荷の関わり CO2排出量の低減

GRI304:生物多様性

	開示事項	掲載箇所
304-1	保護地域および保護地域ではないが生物多様性価値の高い地域、もしくはそれらの隣接地域に所有、賃借、管理している事業サイト	生物多様性の保全
304-2	活動、製品、サービスが生物多様性に与える著しいインパクト	生物多様性の保全
304-3	生息地の保護・復元	生物多様性の保全
304-4	事業の影響を受ける地域に生息するIUCNレッドリストならびに国内保全種リスト対象の生物種	生物多様性の保全

GRI305:大気への排出

	開示事項	掲載箇所
305-1	直接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ1)	CO2排出量の低減
305-2	間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ2)	-
305-3	その他の間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ3)	-
305-4	温室効果ガス(GHG)排出原単位	-
305-5	温室効果ガス(GHG)排出量の削減	CO2排出量の低減
305-6	オゾン層破壊物質(ODS)の排出量	-
305-7	窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)、およびその他の重大な大気排出物	-

GRI306:排水および廃棄物

	開示事項	掲載箇所
306-1	排水の水質および排出先	-
306-2	種類別および処分方法別の廃棄物	CO2排出量の低減
306-3	重大な漏出	該当なし
306-4	有害廃棄物の輸送	該当なし
306-5	排水や表面流水によって影響を受ける水域	生物多様性の保全

GRI307:環境コンプライアンス

開示事項	掲載箇所
307-1 環境法規制の違反	該当なし

GRI308:サプライヤーの環境面のアセスメント

開示事項	掲載箇所
308-1 環境基準により選定した新規サプライヤー	該当なし
308-2 サプライチェーンにおけるマイナスの環境インパクトと実施した措置	該当なし

400シリーズ(社会)

GRI401:雇用

開示事項	掲載箇所
401-1 従業員の新規雇用と離職	-
401-2 正社員には支給され、非正規社員には支給されない手当	-
401-3 育児休暇	働きやすい職場環境づくり

GRI402:労使関係

開示事項	掲載箇所
402-1 事業上の変更に関する最低通知期間	-

GRI403:労働安全衛生 2018

開示事項	掲載箇所
403-1 労働安全衛生マネジメントシステム	-
403-2 危険性(ハザード)の特定、リスク評価、事故調査	-
403-3 労働衛生サービス	-
403-4 労働安全衛生における労働者の参加、協議、コミュニケーション	労働安全衛生
403-5 労働安全衛生に関する労働者研修	-
403-6 労働者の健康増進	-
403-7 ビジネス上の関係で直接結びついた労働安全衛生の影響の防止と緩和	-
403-8 労働安全衛生マネジメントシステムの対象となる労働者	-
403-9 労働関連の傷害	-
403-10 労働関連の疾病・体調不良	-

GRI404:研修と教育

開示事項	掲載箇所
404-1 従業員一人あたりの年間平均研修時間	人材育成とキャリア
404-2 従業員スキル向上プログラムおよび以降支援プログラム	働きやすい職場環境づくり
404-3 業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の割合	働きやすい職場環境づくり

GRI405:ダイバーシティと機会均等

開示事項	掲載箇所
405-1 ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	-
405-2 基本給と報酬総額の男女比	-

GRI406:非差別

開示事項	掲載箇所
406-1 差別事例と実施した救済措置	-

GRI407:結社の自由と団体交渉

開示事項	掲載箇所
------	------

407-1	結社の自由や団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー	-
-------	---	---

GRI408:児童労働

開示事項	掲載箇所
408-1	児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー ガバナンス

GRI409:強制労働

開示事項	掲載箇所
409-1	強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー ガバナンス

GRI410:保安慣行

開示事項	掲載箇所
410-1	人権方針や手順について研修を受けた保安要員 -

GRI411:先住民族の権利

開示事項	掲載箇所
411-1	先住民族の権利を侵害した事例 -

GRI412:人権アセスメント

開示事項	掲載箇所
412-1	人権レビューやインパクト評価の対象とした事業所 -
412-2	人権方針や手順に関する従業員研修 ガバナンス
412-3	人権条項を含むもしくは人権スクリーニングを受けた重要な投資協定および契約 -

GRI413:地域コミュニティ

開示事項	掲載箇所
413-1	地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所 -
413-2	地域コミュニティに著しいマイナスのインパクト（顕在的、潜在的）を及ぼす事業所 重大かつ明白な該当事例なし

GRI414:サプライヤーの社会面のアセスメント

開示事項	掲載箇所
414-1	社会的基準により選定した新規サプライヤー 該当なし
414-2	サプライチェーンにおけるマイナスの社会的インパクトと実施した措置 -

GRI415:公共政策

開示事項	掲載箇所
415-1	政治献金 該当なし

GRI416:顧客の安全衛生

開示事項	掲載箇所
416-1	製品およびサービスのカテゴリーに対する安全衛生インパクトの評価 品質保証体制
416-2	製品およびサービスの安全衛生インパクトに関する違反事例 該当なし

GRI417:マーケティングとラベリング

開示事項	掲載箇所
417-1	製品およびサービスの情報とラベリングに関する要求事項 品質保証体制
417-2	製品およびサービスの情報とラベリングに関する違反事例 -
417-3	マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例 -

GRI418:顧客プライバシー

開示事項	掲載箇所
418-1	顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して具体化した不服申立 -

GRI419:社会経済面のコンプライアンス

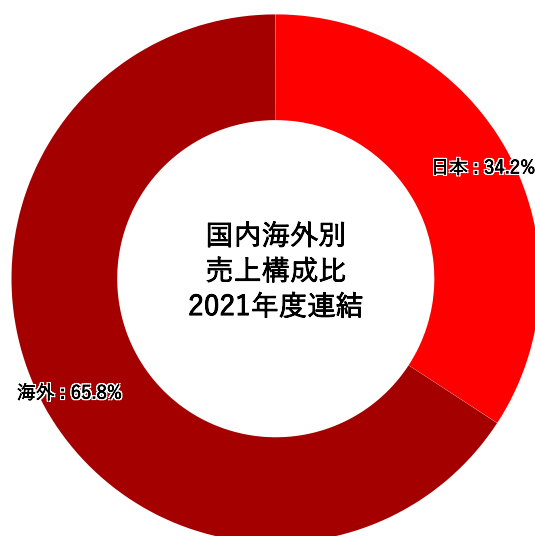
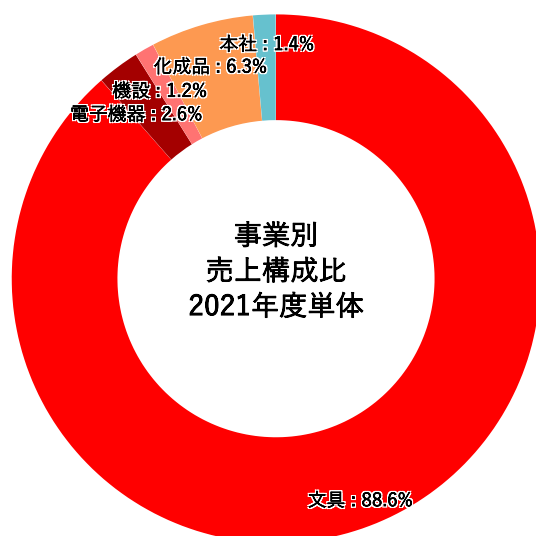
開示事項		掲載箇所
419-1	社会経済分野の法規制違反	-

会社概要

企業情報

会社名	ぺんてる株式会社 PENTEL CO., LTD.
本社	〒103-8538 東京都中央区日本橋小網町7-2
創立	1946年3月
資本金	4億5,000万円
事業内容	1. 文具事務用品(画材、筆記具など)の製造販売 2. 電子機器(タッチパネル、タッチスイッチ、ペントラレットなど)の製造販売 3. 産業用ロボット、産業用自動組立機、射出成形用精密金型、精密ハンドプレスの製造販売 4. 化成品関連製品(化粧品部品、医療機器など)の製造販売
従業員数	2021年度実績(連結)2,704人(単体)657人
売上高	2021年度実績(連結)37,181百万円(単体)21,657百万円

事業活動の内訳

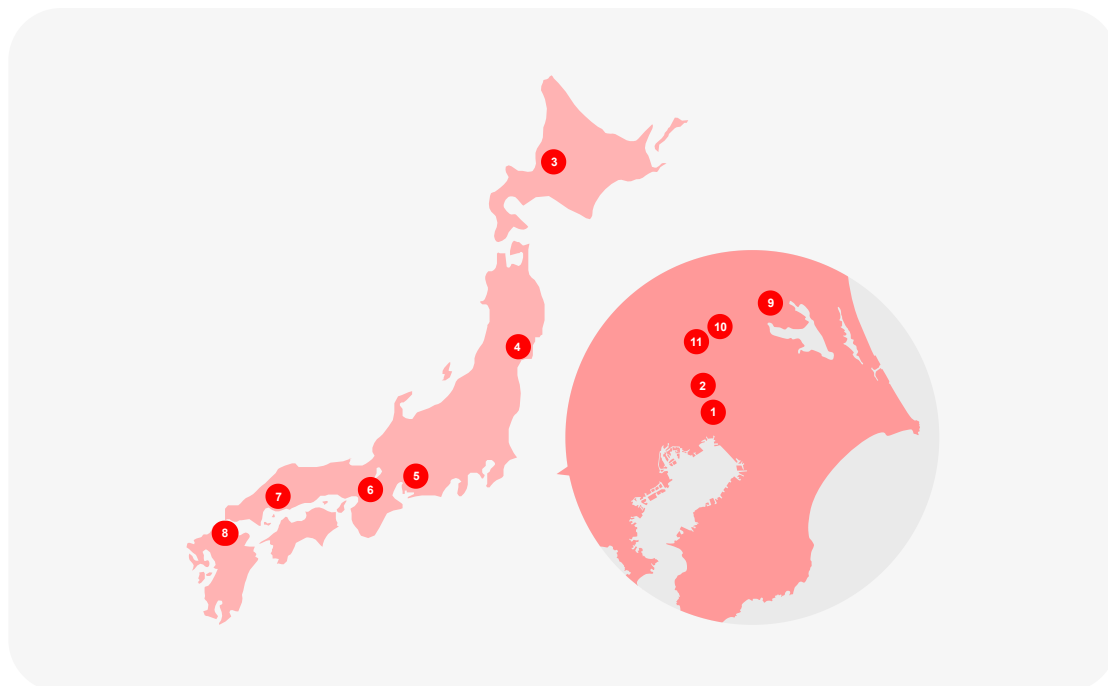


文具 電子機器 機設 化成品 本社

日本 海外

国内海外事業所

・国内事業所



・本社及び営業部

① 本社
〒103-8538 東京都中央区日本橋小網町7-2
TEL.03(3667)3333 大代表 FAX.03(5695)7303

① 海外営業本部
〒103-8538 東京都中央区日本橋小網町7-2
TEL.03(3667)3333 大代表 FAX.03(3249)6083

② 秋葉原オフィス(国内営業本部)
〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-6-10
TEL.03(3866)6161 代表 FAX.03(5820)7487

・支店及び営業所

③ 札幌営業所
〒003-0026 北海道札幌市白石区本通19丁目南2番7号 食糧ビル1階
TEL.011(862)8921 FAX.011(860)2483

④ 仙台営業所
〒984-0032 宮城県仙台市若林区荒井7丁目38番地の1
TEL.022(253)6621 FAX.022(390)3533

⑤ 名古屋支店
〒461-0002 愛知県名古屋市中区代官町35-16 第一富士ビル6階
TEL.052(939)1791 FAX.052(939)1970

⑥ 大阪支店
〒577-0013 大阪府東大阪市長田中4-6-3
TEL.06(6747)1601 代表 FAX.06(6747)1600

⑦ 広島営業所
〒733-0036 広島県広島市西区観音新町2丁目4-25 第一菱興ビル2階
TEL.082(293)0505 FAX.082(297)2565

8 福岡支店

〒812-0018 福岡県福岡市博多区住吉3丁目1番80号 オヌキ新博多ビル3階
TEL.092(283)7280 FAX.092(283)7288

・ **工場**

9 茨城工場

〒311-3497 茨城県小美玉市上玉里2239-1
TEL.0299(26)1211~1222 FAX.0299(26)5662

10 吉川工場

〒342-0005 埼玉県吉川市川藤125
TEL.048(982)8511~7 FAX.048(984)1212

11 草加工場

〒340-0017 埼玉県草加市吉町4-1-8
TEL.048(922)1111 代表 FAX.048(922)1122

・ **新規事業本部**

11 電子機器部

〒340-0017 埼玉県草加市吉町4-1-8
TEL.048(928)7912 FAX.048(928)7762

11 機設部

〒340-0017 埼玉県草加市吉町4-1-8
TEL.048(928)7917 FAX.048(927)6159

11 化成品部

〒340-0052 埼玉県草加市金明町415-1
TEL.048(951)5430 FAX.048(951)5436

・海外事業所



※2022年9月現在

赤丸:販売会社 黒丸:海外工場

- | | | |
|--------------|--------------|-----------------|
| ① イギリスペンてる | ② ドイツペンてる | ③ ユーロペンてる(フランス) |
| ④ スイスペンてる | ⑤ イタリアペンてる | ⑥ ポーランドペンてる |
| ⑦ 南アフリカペンてる | ⑧ インドペンてる | ⑨ インド工場 |
| ⑩ シンガポールペンてる | ⑪ マレーシアペンてる | ⑫ タイ工場 |
| ⑬ タイペンてる | ⑭ 香港ペンてる | ⑮ 上海ペンてる |
| ⑯ 台湾ペンてる | ⑰ 台湾工場 | ⑱ オーストラリアペンてる |
| ⑲ カナダペンてる | ⑳ ペンてるオブアメリカ | ㉑ メキシコ工場 |
| ㉒ メキシコペンてる | ㉓ ラテンペンてる | ㉔ ブラジルペンてる |
| ㉕ ブラジル工場 | | |

事業部紹介

• 文具事業

ぺんてるでは、画材・消し具・マーキングペン・ボールペン・シャープペンシル・替芯といった文具事務用品を製造・販売しています。“世の中にないものを開発し、新たな需要と市場を創造する”という信念のもと、世界に先駆けて発売した「合成樹脂を配合したシャープペン替芯」や、米国大統領が使用したのをきっかけに世界的ヒット商品となった「ぺんてるサインペン」、人工毛を使用した毛筆タイプの筆ペン「ぺんてる筆」など、時代を牽引する画期的な筆記具類を世に送り出してきました。

今後も創業時より一貫した冒険心、アイデア精神を受け継ぎ、お客様に愛される製品を提供していきます。



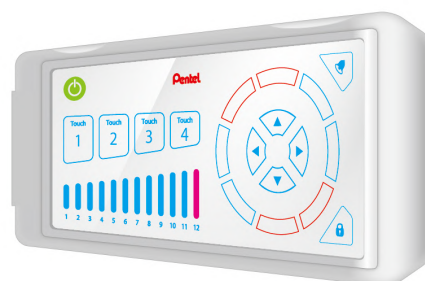
• 新規事業

電子機器部

クレヨンやボールペンといった“アナログの入力ツール”を生み出してきたぺんてるは、文具事業の生産設備で培った制御技術により“デジタルの入力ツール”の開発・製造も展開しています。コア技術の静電容量結合方式を活用した液晶画面上に文字や絵を描く液晶ペンタブレットを開発し、特にプリントシール機のらくがきに用いられるペンタブレットは、長年高いシェアを誇っています。また安定した動作の静電スイッチは、電化製品や操作パネルなどにも広く採用され、今後も身近で使いやすく夢のある入力機器の開発を目指しています。



液晶ペンタブレット



静電スイッチ

化成品部

文具の研究開発・生産により培ってきたペンてるの技術やノウハウを活用して、さまざまなメーカーの製品開発・製造を受注することを目的に誕生したのが、化成品事業です。

ペンの機構とタッチ感にこだわりを持つペンてるならではのペン型化粧塗布容器は、世界の化粧品メーカーから信頼が寄せられ、世界トップクラスのナイロン毛加工技術を活用し、化粧筆などの製品開発をサポートしています。

また、医療業界でもペンてるの技術を活かした製品をご提供しています。製品の機構設計から商品化・量産化に至るまで一貫して担い、厳しい品質基準をクリアした安全性の高い医療用部品や容器を納品することで、お客様の優れた製品の開発をサポートします。



化粧品容器



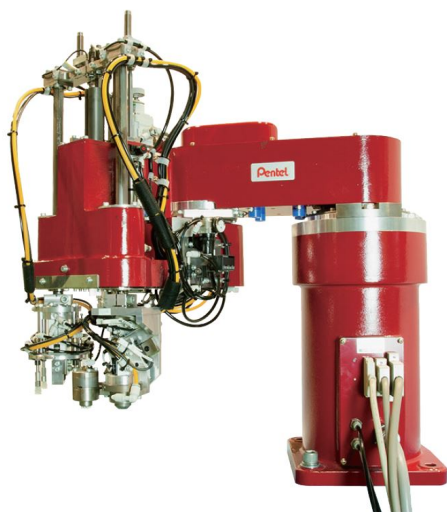
医療用部品

機設部

ペンてるは「自社製品は自社製設備で」をポリシーとし、文具メーカーとして他社に先駆けて生産ラインの自動化を進め、生産性の大幅な向上を実現しました。製品だけでなく、生産設備の設計・開発においても豊富な実績を誇り、これらを活かして始めたのが機設事業です。

現在では文具製造のための社内設備だけでなく、他社向けの産業用生産設備を幅広く展開。部品の組立や検査を行う自動組立機をはじめ、独自開発の産業用ロボットを搭載した自動インサート成形システムや、画像検査装置といった製品群は、機能性はもちろん、使いやすさにおいてもお客様から高い評価と信頼を得ています。

自動車部品分野や医療分野など幅広い業界において、今までに約2,000システムもの生産設備を開発・製造しています。



スカラロボット